

題字・山下太郎名誉教授

静岡大学文理・人文学部同窓会

発行人 ■藤木紀男

編集人 ■岳委員会

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学共通教育A棟

Tel.054-238-5148 Fax.054-238-5148

Web e-gaku.org

### 〈住所訂正のお願い〉

昨今の市町村合併の影響で、転居しなくても住所表記が変わるケースが増えています。順次訂正に務めておりますが、訂正漏れがありましたら最終面の「変更データ個人票」でお知らせください。

静岡大学文理・人文学部同窓会事務局

### 目次

「静大フェスタ」開幕 「静岡大学創立60周年記念式典」行われる!! 人文3法 三島文夫……………1
平成21年度「静岡大学文理・人文学部同窓会総会」の御案内……………1
会計報告……………2
追慕 河中二講先生 文理12法 愛野明宣……………2
恩師・河中二講先生 文理14法 飯坂慶一……………2
「旧制静岡高等学校平成21年度同窓会総会」開かれる!! 人文3法 三島文夫……………2
第13回東海支部総会が開催されました。 東海支部副支部長 人文14法 水野裕之……………3
「未来を拓く静岡大学」推進に期待します 浜松支部役員 人文14経 袴田克弥……………3
奨学金制度のためのご寄附のお願い……………3
新しい執行体制を決定、若返り化と支部活動の活性化へ 第28回東京支部総会開催＝6月12日 前東京支部長 文理7法 福岡 厚……………4
第28回東京支部総会（6月12日）にあたり近況等の連絡……………4
同窓会員の連絡先照会のお願い……………4
歴史（史実）の軽視ということ 人文1外国史 山口 茂……………5
「供養とスケッチの四国八十八ヶ所寺遍路旅」 文理9経 小林五郎……………5
大学だより……………6
できると思えば必ずできる！－これが私の座右の銘 言語文化3年 徐 玄朱……………6
これからの学生生活 法学科年3年 横山彬奈……………6
大学に入学して 経済学科1年 片岡飛鳥……………7
“大学に入学して”今思うこと 社会学科1年 新井勝大……………7
退職された先生……………7
塩谷 敬先生 言語文化学科准教授 安永 愛……………7
久保英雄先生 言語文化学科教授 田村充正……………7
新任教官紹介 社会学科 堂園俊彦……………7
平成21年3月 人文学部卒業生就職・進学等学科別一覧……………7
書籍紹介……………8

## 「静大フェスタ」開幕

# “静岡大学創立60周年記念式典”

### 行われる!!

人文3法 三島文夫

ツインmesse静岡の北館のメインステージで、5月30日午前10時から、塩谷文部科学大臣ほかの来賓の方々、静岡大学の教職員、学生、各学部の同窓会関係者など多数の来場者を前に、静岡大学創立60周年記念式典が行われた。文理人文学部同窓会からは、藤木会長、小林副会長が出席しました。会場には、大岩の旧制静岡高等学校の校舎の写真が飾られたブースもあり、懐かしそうに見入っておられる方もありました。

#### 【興直孝学長挨拶】

「静岡大学は、昭和24年に、旧制の静岡高等学校、静岡第一師範学校、静岡第二師範学校、静岡青年師範学校、浜松高等専門学校を統合し、昭和26年、静岡県立農科大学の移管とともに、今日の静岡大学として発足し、平成21年6月1日、創立60周年を迎えます。当時、施設整備のために、3億円の資金が必要だったが、県から2億円、県民からの募金1億円で賄うことができたということです。

平成20年3月に、教員、職員一丸となって、新たに、「自由啓発・未来創成」を本学のビジョンに定め、多様な背景・価値観を認めあい、気高い使命感と探究心に溢れた豊かな人間性をはぐくみ、人類の平和・幸福と地球の未来のため、地域社会とともに発展していくことを誓いました。

5月30日（土）と31日（日）の2日間、「静大フェスタ」として、この「ツインmesse静岡」を会場に、県民と一緒に社会の発展を考える意味で、様々な研究を紹介するブースを設け、斬新な形で、60周年を祝うことにしました。」



左より西条静岡市教育長、塩谷文部科学大臣、興学長

#### 【塩谷文部科学大臣挨拶】

「今、時代は大きな転換期に差し掛かっており、新たな出発点が必要になってきています。60周年を機にますます頑張ってください。私も子供の頃、静大の附属へ通った。様々な分野で卒業生が、頑張ってくれております。人材の育成が大学の大きな役割であります。地域とのつながり、国際的な連携を大事にして取り組んでいっていただきたい。静岡県の経済関係、社会関係の指標は、全国10位というものが多い。全国10位の実力をもった県ということです。静岡大学もこれくらいになってもらいたいと思います。」

続いて、静岡市の西条教育長、静岡大学全学同窓会の浅野会長代理からも祝辞が述べられました。

## 平成21年度 “静岡大学文理・人文学部同窓会総会” の御案内

金融危機の深刻化と実体経済の急激な落ち込みが一段落し、国の内外の景気の現状はとりあえず、底割れの危機を脱したのではないかとされており、失業率の上昇、賃下げ圧力の増大など、明るい兆しを感じられるには程遠いようであります。

こうした中であっても、同窓生の皆様方には、お元気で頑張っておられることと思います。こ

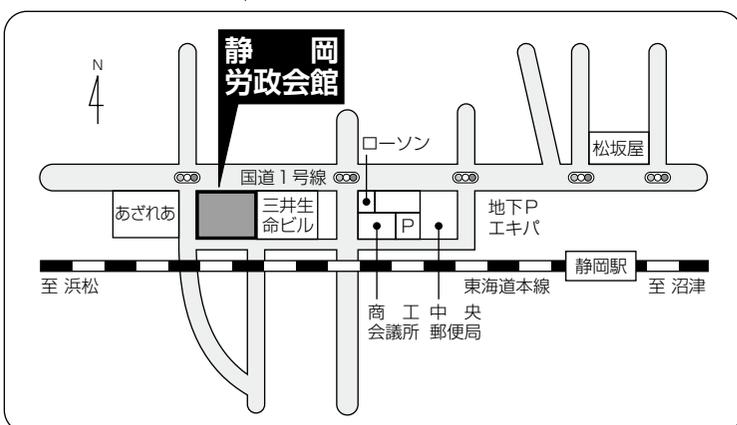
のような時代であるからこそ、同窓の仲間が寄り添い、語り合うことが明日の活力を生み出していくものと思います。

前回の20年2月10日に開かれた総会で選出された役員の方々の後任の役員を選出するための総会を次のとおり開きますので、多数の同窓生の積極的な御参加をお願いします。

#### 記

- 1 日時 平成21年11月14日（土） 午後1時30分から3時まで
- 2 会場 静岡労政会館 視聴覚室  
〒420-0851 静岡市葵区黒金町5-1  
静岡県勤労者総合会館内  
Tel 054-221-6280  
\* JR静岡駅北口より徒歩7分（500メートル）
- 3 議題 次期新役員を選任
- 4 懇親会 午後4時から5時30分まで

静岡労政会館 | JR静岡駅北口より徒歩7分（500m）



# 会計報告

## 平成 20 年度会計報告

期間 平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

会計 落合康彦 (人文 13)

監事 大橋昭夫 (人文 2) 小川利春 (人文 5) 早川登上 (人文 9)

(単位:円)

勘定科目	決算額	予算額	増減	摘要
終身会費	7,131,100	8,000,000	-868,900	新入生 334 名, 既存会員 6 名
名簿売上代金	3,000	0	3,000	名簿等
「岳」購読料	3,000	0	3,000	
預金利息	8,374	4,000	4,374	定期預金・普通預金
法科支援協会	0	204,000	-204,000	事務委託料
運営基金取崩	1,000,000	0	1,000,000	
雑収入	0	0	0	
小計	8,145,474	8,208,000	-62,526	
前期繰越金	787,303	787,303	0	
合計	8,932,777	8,995,303	-62,526	

勘定科目	決算額	予算額	増減	摘要
総会費	0	0	0	
会議費	91,420	100,000	-8,580	
交通費	206,770	400,000	-193,230	
印刷費	2,075,470	1,500,000	575,470	「岳」二回・増刊・HP
通信費	802,040	800,000	2,040	「岳」郵送料
名簿諸費	897,831	900,000	-2,169	テ-ラ再入力・発行・配送
支部補助費	2,062,595	2,000,000	62,595	基本・人数割補助, 郵送料補助
大学関係費	274,175	1,150,000	-875,825	研究補助金・奨学金未済
小集団活動	182,586	200,000	-17,414	9 件
全学同窓会	30,000	0	30,000	
法科支援業務費	103,075	102,000	1,075	
事務所費	1,602,411	1,700,000	-97,589	人件費・事務用品費
諸支出	72,315	60,000	12,315	支部総会・祝儀
小計	8,400,688	8,912,000	-511,312	
次期繰越金	532,089	83,303	448,786	
合計	8,932,777	8,995,303	-62,526	

## 平成 20 年度貸借対照表

平成 21 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

借 方		貸 方	
科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	5,950,507	未払金	0
普通預金	950,507	負債計	0
定期預金	5,000,000	(正味資産の部)	
未収入金	0	積立金	5,000,000
立替金	0	運営基金	5,000,000
固定資産		余剰金	950,507
敷金	0	固定資産	0
		本年度余剰金	950,507
		正味資産計	5,950,507
合計	5,950,507	合計	5,950,507

## 財産目録

平成 21 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

摘 要	金 額
(資産の部)	
流動資産	
普通預金(しずおか信用金庫 No.1009195)	433,726
( // No.151796)	516,781
( // No.195831)	0
(郵便局 No.56867)	0
( // No.105137)	0
定期預金(しずおか信用金庫 No.488797)	3,000,000
定期預金(しずおか信用金庫 No.488789)	2,000,000
未収入金(平成 19 年度終身会費)	
立替金	
固定資産	
敷金(本部事務所)	0
資産の部合計	5,950,507
(負債の部)	
流動負債	
未払金	0
負債の部合計	0
差引正味財産	5,950,507

## 平成 21 年度予算

期間 平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

(単位:円)

勘定科目	予算額	前年度予算	増減	摘要
終身会費	8,000,000	8,000,000	0	新入生 350 名, 既存会員 50 名
預金利息	4,000	4,000	0	
名簿売上	0	0	0	
総会収入	300,000	0	300,000	
法科支援協会	204,000	204,000	0	人件費
運営基金取崩	1,000,000	0	1,000,000	
小計	9,508,000	8,208,000	1,300,000	
前期繰越金	532,089	787,303	-255,214	
合計	10,040,089	8,995,303	1,044,786	
総会費	500,000	0	500,000	
会議費	100,000	100,000	0	
交通費	400,000	400,000	0	
印刷費	1,800,000	1,500,000	300,000	「岳」発行・宛名シール
通信費	1,000,000	800,000	200,000	「岳」郵送料
名簿諸費	900,000	900,000	0	学生名簿送付, 終身会費登録
支部補助費	2,000,000	2,100,000	-100,000	
大学関係費	900,000	1,150,000	-250,000	奨学金 90 万
小集団活動補助金	200,000	200,000	0	
全学同窓会	0	0	0	
同窓会運営基金	0	0	0	
事務所費	1,700,000	1,700,000	0	
法科支援業務費	102,000	0	102,000	人件費
諸支出	60,000	600,000	-540,000	5 支部×1 万, 旧制静高
小計	9,662,000	9,450,000	212,000	
次期繰越金	378,089	85,303	292,786	
合計	10,040,089	8,995,303	1,044,786	

※ 科目間の流用を認める

# 追慕 河中二講先生

文理 12 法 愛野明宣

心からお慕い申し上げる方が多かった河中二講先生とお別れのことを、会員の皆様、特に河中ゼミ生の皆様に、謹んでお知らせ申し上げます。

河中先生は、2月5日朝、気分が悪くなられ救急車で入院され、そのまま夕刻にお亡くなりになられたとのこと。2年程前から心臓に不調があったとのことでした。

85歳というお年ながら、まだまだお元気でご活躍をいただけるはずなのに、残念でなりません。謹んでお悔やみ申し上げます。

ご葬儀は極お身内でとのことで、奥様の美子様からのご連絡もご葬儀の前々日、多くの方にはご連絡できませんでしたが、文理6回小嶋清美、7回福岡厚、同7回根岸恭久、同7回中島鎮夫、12回愛野明宣、13回伊藤秀敏、同望月圭二、同望月佳子夫人、14回飯坂慶一、同小形耕八の10名の方が先生とお別れをいたしました。先生のご戒名は、「尚書院釈浄慶嗣講居士」とあり、ご生前の先生そのものとの、感銘を受けました。

河中二講先生と申しても、人文学部の卒業生でも多分4回・5回卒業の方くらいまでしか存じないかは存じますが、静岡大学文学部・人文学部で行政学の先生として教鞭をとられました。当時、NHKの教育テレビ番組などで、地方自治体の行政を、現場から捉え活発に発言していられたことを思い出します。

ゼミ生は、文理2回から人文3回まで100名余あり、度々先生ご夫妻を中心と

する「河中先生を囲む会」が、会場をあちこちと変えながら、20名、多いときには30名を超える方々の参加を得て開催され、縦横の同級生の親睦が深められてまいりました。その意味で、中心となる先生を失ったことは、誠に悲しく残念なことなのです。



在りし日の河中先生

河中先生を語るとき、シャンソンのことを書き忘れては片手落ちになると思います。先生を囲む会を、歌手に生出演していただけるお店で開催したことが2度あり、もっと多分20年以上前に歌手に初めてお越しいただいた囲む会も開催されたと記憶します。もちろんその都度、先生も渋い声で歌われました。

ご葬儀のときにも控室である方が、先生は隠れたシャンソン界の実力者で、多くの歌手の育成に関わってこられたと、その隠された一面を明かされたのです。甥に当たられるご夫婦は、叔父様の意外な一面を始めて知ったと驚いていられました。

ここで、東京都職員を退職後の現在も「都庁詩を作る会」を主催される、文理14回飯坂慶一様から寄せられました「恩師・河中二講先生」と題する詩を紹介させていただき、お知らせといたします。

# 恩師・河中二講先生

文理 14 法 飯坂慶一

今冬二月十日朝小雪舞う百三十万㎡もある多磨霊園の一角を散策し八五歳の死を悼んだ年賀状が届かないのでどうされたのかと思っていた矢先のことだった  
霊園に隣接する斎場で恩師の穏やかな遺影を前にして万感の思いで一杯になった  
卒業後も定期的に開かれた先生夫妻を囲む会参加の面々が集まり冥福を祈った

静岡で学んだ学生時代はアルバイトに明け暮れるなかでささやかな読書体験を重ねた  
河中先生どの講義も古典から海外の文献に至る多岐に亘り刺激的なものだった  
行政ゼミに参加し 臨時行政調査会答申をベースにした官僚制度論・組織論を学んだ  
コンパゼミの異称をもつほど何かにつけて飲んで駿府公園で大声をあげて走りまわった

就職を控えた昭和四十年 世にいう「四十年不況」に遭遇した  
当時の二期校は北海道から九州まで全国から学生が集まり多士済々の学友がいた  
同級生の多くは郷里の県庁を受験 私は国家公務員上級試験に挑戦し自治体も受験した  
どうにか全てに合格し迷ったとき先生の「情報豊かな東京だよ」が決め手になった

卒業時ゼミの面々に『ゲーテ詩集』を配られたが先生の真意をどこまで解し得たものか  
先生の趣味のシャンソンは長年続き あるときは河中ファミリーが集まりプロの歌手をお呼びしての席に囲む会の幹事役が招待を受けてその雰囲気味わうことができた  
その後プロ歌手のコンサートで花束を贈呈した先生の姿には少年の面影を感じた

平成十三年五月 先生は「勲三等瑞宝章」を受章され先生を囲む会が主体となりその後席を置いた成蹊大学との合同の祝賀会を開催しお祝いをする事ができた  
先生が昭和四十六年静岡を去ったのを契機に発足した「河中先生を囲む会」は七回開かれこのとき三一年間で八回目の会合であった 世話役として中心となったA氏の尽力によるものでその後母校の同窓会長としてその力量を発揮された

先生の昨年の年賀状を取り出してあらためてしっかりと読んで  
「過ぎた時が懐かしく思い出されることがありますが、しかも、今も、また未来も何時か新たな過去となって、懐かしむことがあるでしょうか。夏に手術での緊急入院を二週間経験しましたが、この経験で、未知の人生が又少し分ってきました。」

納棺で高齢の奥様の先生との最後の別れを目にして人生の何たるかを痛切に思った生前「人生について頭を柔らかくして考えること」と語った先生の言葉がふいに甦った

## 「旧制静岡高等学校 平成21年度同窓会総会」開かれる!!

人文3法 三島文夫



(興学長)

5月12日(火)、東京の銀座プロッサム中央会館で、「旧制静岡高等学校平成21年度同窓会総会」が開かれた。出席者64名、うち静大から10名が出席。90歳を過ぎた方も大勢いらっしやいました。その元気な姿に感嘆しました。土屋公献会長の後を継いで、新しく会長に選任さ

れた大塚正信会長は、「来年11月に創立88周年記念大会を東京で開催する予定。記念大会としては最後となる。同窓会は存続、活動は継続していく。幹事12名中5名が静大の卒業生。これからも、静大にはお世話になる。よろしくおねがいします。」と挨拶の中で述べられました。来賓として挨拶に立った興直孝静大元学長は、「静大として、旧制静岡高等学校の伝統を引き継いでいきたい。」と述べられました。



静大からの出席者

## 第13回東海支部総会が開催されました。

東海支部副支部長 水野裕之 (人文14法)

平成21年6月20日(土)午後4時から、名古屋駅前・名鉄グランドホテルにおきまして、東海支部の第13回支部総会が開催されました。

大学から佐藤人文学部長、同窓会からは小林同窓会副会長ほか各支部の代表の方々、そして工学部同窓会の浜松工業会愛知支部長さんをお招きし、総勢57名の参加で、大変盛り上がった会となりました。

今回の目玉は講演会。昨年11月、愛知県知立市長に初当選された林郁夫さん(人文15回経済卒)を講師にお招きし、市政や市長選について大変興味深いお話をお聞かせいただきました。林市長さんの熱い想いに応えるべく、同窓会としても可能な限り応援していきたいと思いま

ご参加いただいた方々の顔ぶれを見てもみまると、そろそろリタイアする世代に差し掛かった文理の後半から人文の前半の方々が増えたのに対し、残念ながらその前の先輩方が少し寂しくなってきました。また、相変わらず若手の参加は極めて厳しい状況です。それでも、今回初参加の方とずいぶん仲良くなることができました。人の輪が広がることこそ同窓会の醍醐味です。

時を忘れた歓談の後、恒例となった清水碩二さん(文理3)の素敵なシャンソンで盛り上がり、最後は「地のさざめごと」の高唱で懇親会の幕を閉じました。

次回は2年後、平成23年の6月です。皆さんお元気で、またお会いしましょう。



## 「未来を拓く静岡大学」 推進に期待します

浜松支部役員 袴田克弥 (人文14経)

質の高い教育と創造的な研究を推進し、社会と連携し、ともに歩む存在感のある大学を目指し08年3月に「未来を拓く静岡大学～ビジョンと戦略～」が策定されています。

これを語るシンポジウムも5月30日の静大フェスタで開催されたところですが、シンポジウムに先駆け各学部同窓会を中心に「静岡大学に対する思いをOBの立場から掘り起こす」フリートークも5月12日に静岡・浜松の2会場を結びテレビ会議により開催されました。浜松支部も浜松会場のパネリストとして参加させていただき、他学部同窓生の方と意見交換を行ってきた次第です。

ここで「岳」読者の皆さんに、このフリートークで私が参加した分科会の意見をご紹介しますと、静岡大学の将来像という点で各パネリストに共通する意見は概ね以下4点に集約されました。

- ①大学・学生・同窓生がビジョンに関する共通認識を持っていることが成功の条件となる。
- ②大学・学生・同窓生の諸活動をこのビジョンをリンクさせ、外部に向けて発信する必要がある。
- ③本計画推進によって、どのような社会人を排出させていくのかをもう少し明確化する必要がある。

④これまで大学は「研究」面に重きを置いてきたが、今後は「教育」面を前面に出した姿勢を打出していったほうがよい。

短時間での討議でしたので、パネリスト各位が十分な意見提出を果たすことはできませんでしたが、各位が事前に配布されていた資料を丹念に読み込んだ上でフリートークに参加されていることで随分と緊張感・真剣味に溢れる会であったと感じました。「岳」読者の皆さんは静岡大学の将来像にどのようなお考えをお持ちでしょうか。

私自身が仕事として携わっている行政においてもそうですが、このような計画を長きに亘り進めていくためには言うまでもなく「基本理念を忘れないこと」「計画を社会変革に即応させ形骸化・陳腐化させることのないようにすること」を継続していくことが非常に重要です。私自身は、実はここが一番肝心なことと考えています。

今後、大学・学生・同窓生が計画実現に向け積極性を重ね、大きな成果を結実させていこうとするならば、浜松支部もぜひ一役参加していきたいものです。

## 奨学金制度のためのご寄附のお願い

2006年度に、卒業生からの寄付金を原資として、人文学部および大学院人文社会科学研究科独自の奨学金制度を創設して、今年度で4年目になります。初年度には、同窓会の皆様にも寄付をお願いし、奨学金制度のスタートに協力を頂きましたこと、改めてお礼申し上げます。本奨学金制度により、毎年、経済的困難を抱えながらも学業成績優秀で勉学に励んでいる2年次学生2名、学業成績が優秀で向学心旺盛な3年次2名および大学院生1名の合計5名を公募・選考し、一人当たり20万円を給付しています。授与式後の学生たちとの懇談会では、「奨学金給付を有効に生かして、勉学に一層励み、奨学金制度設立の趣旨の関係者の皆さんの期待に応えたい。」という、前向きな声を聞くことができました。

私どもとしましては、学生達からたいへん喜ばれ、かつ勉学の奨励に大きく寄与している、この奨学金制度をできるだけ長期にわたって存続・維持させたいと願っています。

つきましては、同窓会誌『岳』の紙面をお借りし、奨学金制度の趣旨をご理解いただいた上でご寄付をお願いする次第です。本学部及び本大学院の学生に対する教育上のご支援を心よりお願い申し上げます。

2009年7月

静岡大学人文学部長・

大学院人文社会科学研究科長

佐藤 誠二

### 寄附要綱

- 1 寄附の趣旨  
人文学部及び大学院人文社会科学研究科の学生の奨学金基金のため
- 2 寄附金募集の目標  
2016年までに、1,000万円
- 3 寄附の方法  
1口5,000円とし、できるだけ多くのご協力をお願いします。  
同封の郵便振替用紙にて必要事項をご記入の上、お振り込みください。
- 4 この寄附金は、所得税法上の寄付金控除の対象となります。

\* 問い合わせ先  
静岡大学人文学部総務係  
Tel 054-238-4483  
Fax 054-237-3612

# 新しい執行体制を決定、若返り化と支部活動の活性化へ 第28回東京支部総会開催=6月12日

前東京支部長 福岡 厚 (文理7法)

第28回東京支部総会は6月12日(金)午後6時からアルカディア市ヶ谷(私学会館)において開催された。参加者は文理18、工進2、人文5、計25人。前回27人を残念ながら下回ったが、その中に新しい発展の芽も感じ取ることが出来た総会であった。

総会の司会は副支部長伊藤英敏君(文理13)。

福岡支部長が開会の挨拶をし、併せて先に亡くなられた河中二講先生、原辰男君(文理11法)ら支部活動に貢献のあった方の御霊に黙祷を捧げた。

議長に中溝浩君(文理8経)を選出し議事に入る。今回は昨年承認された「東京支部会則」に基づく初めての総会である。

1号議案 2008年度事業報告及び2008年度会計報告、2号議案 2009年度事業計画案及び2009年度予算案、3号議案 東京支部役員及び支部委員の選任、をそれぞれ拍手で承認決定した。

同窓会活動を楽しく意義を感じられるものに工夫してほしいとの提言補強意見がなされ、支部長が前向きに検討したいと回答した。

今回選任された役員は以下のとおり。

支部長 吉川 駿(文理12経)、副支部長 伊藤英敏(文理13法)、同 高橋 保(人文2法)、同 小川利春(人文5法)、事務局長 森本康男(文理9法)、事務局次長 佐藤吉元(人文3経)、会計監事 中溝 浩(文理8経)、同 岡村忠親(人文19法)。支部委員 三神哲也(文理5法)、日下民夫(文理6法)、中村久一郎(工進7)、井村謙一(文理8経)、松山朝夫(文理9化)、増井忠式(文理11物)、房野照一(文理13経)、野村敏次(文理15経)、三島利徳(人文2外史)、田中伸一(人文11経)。

来賓として佐藤誠二人文学部長、同窓会本部の小林五郎副会長、旧制静岡高等学校同窓会大塚正信会長、同草野芳正代表幹事、金森誠也先生、浜松工業会東京支部永野澄副支部長、農学部関東農化会鶏飼暢雄氏、元事務職員田邊郁子さんのほか同窓会各支部から高橋建雄北海道支部顧問、木保晃静岡支部長、阿部治彦浜松支部長、杉浦雅樹東海支部長、岩本平関西支部長が参加し、東京支部にそれぞれエールを送ってくれた。

佐藤学部長は、「今年は静岡大学創立60周年。文理学部から始まった学部も今や人文学部生だけで2,500人、社会学科、人文学科、法学科、経済学科の4学科を擁している。然し同窓会とのコミュニケーションは不十分であり、もっと交流を深めたい。大学にはキャンパスワークとフィールドワークがあり、同窓会、学生、教授がそれぞれのフィールドに

おいて互いにフィードバックを図って行きたい」と話された。

同窓会本部の小林副会長は、同窓会活性化に向けた三つの課題を訴え、「来年度から現役在校生との交流強化のため同窓会員による講座を設け、交流を深めたい」と話された。

旧制静岡同窓会大塚会長は、「来年の88周年大会の成功に向け一層の協力をお願いしたい」と述べられた。

懇親会は佐藤吉元君(人文3経)が進行役になって進められた。冒頭新たに選任された吉川駿支部長が「新役員一同力を合わせ同窓会活動を盛り上げて行きたい。人文出身者を増やし、支部に顧問、評議員を置き、会の円滑な運営を図りたい」と力強く方針を述べた。

金森誠也先生の発声で乾杯。先生からバルタザール・グラシアン著『至高の哲人』の訳書を寄贈された。

乾杯後、来賓の方々の話を聞きながら、あちこちで交流の輪が広がった。先生との語り、旧知との再会、初対面の挨拶から広がる話題、これこそが同窓会の真髄と思われる和やかな風景が展開された。時間は瞬間に過ぎ、最後に察歌「地のさざめごと」を小嶋清美兄(文理6法)の朗々たる序詞高唱後全員で合唱する。肩を組んで歌うグループもあり、心は瞬時に学生時代に戻る。これまでで一番良かったとの感想もあった。

静岡から毎年お越しの田邊郁子さん。体の動く限り次回も参加したいと語る。嘗て良き姉上であり相談相手だった田邊さん。最早慈母の如き存在と感じ入った。

なお小生今回無事支部長の大役を終え、漸く肩の荷を降ろすこととなった。思えば2000夏、次期人文出身者に引き継ぐまでの中継ぎとの条件でやむなく引き受けて以来9年、何度も壁に突き当たりながら何とか持ちこたえられたのは、偏に役員諸兄の協力の賜物と感謝する次第である。吉川新支部長以下の強力メンバーに後を任せ、“老兵は死なず、ただ消え去るのみ”(only just fade away)であります。

\*\*\*\*\*  
\* 訃報  
\* 原 辰男さん(文理11法)が5月10日肺炎により急逝されました。支部会報の名編集長でした。講談社で各種雑誌の編集を手掛けた手腕は秋季発行の「支部総会特集号」に遺憾なく発揮され、写真主体の実に見応えのある楽しいものでした。絵はプロ並み、こよなく日本酒を愛しました。御冥福を祈ります。  
\*\*\*\*\*



## 第28回東京支部総会(6月12日)にあたり近況等の連絡

- 81歳になりました。このところ海外旅行は億劫になったので、国内旅行を楽しんでいます。・関が原・養老の滝・大垣・日光・宇都宮・室津etc(元教官 金森誠也)
- 不二バラがこの世のものとも思えないほどに咲き誇り、そして散り、丸子の里も緑に輝く此の頃です。喜びも悲しみもある此の頃ですが、やはり、「仰秀察 命」燃やす日、皆様にお目にかかる日を心より願っています。(元文部事務官 田辺郁子(旧姓 茂木))
- 3月中旬、3日間入院し前立腺肥大症のレーザー切除を行いました。体調はまあまあ状況で

- す。6月7~9日、鳥海山にスケッチ旅行しました。(文理2法 折井 勉)
- 昨年、静岡市から鎌倉市に転居し、引越して足を痛め外出がままなりませんので欠席いたします。皆様によりきお伝えください。(文理2経 桑原 徹)
- 昨年夏、8年の介護空しく家内が旅立ち、早や1周忌。78歳となり老いを感ぜざるを得ず。会報をいつもありがと。残念ながら、今回欠席しますが、祈 盛会。(文理2経 関本和男)
- 妻の介護の日と会の日程を上手に調整できなくて、今年も欠席します。\*2, 3年出ないと忘れら

れちゃうよ」といつだったか出たら、寮時代の友人から言われた言葉を思い出しています。(文理3法、6史 近藤正巳)

■ 08年9月19日、突然 胆管癌で、放置余命半年の宣告を受け、即入院・手術、2ヶ月の入院生活の後、今は2週に1度の抗癌剤の点滴投与中。65歳以上では2人に1人は何らかの癌に冒されていると言われていた今日、癌の恐怖は身近なものになっていく。今は癌と向き合い、克服し、家族のため社員のため1日でも長く社会生活を続けられるように努力しています。(文理3経 辻 庸良)

■ 微力ながら、まだ介護現場で活動しています。我々、元気な高齢者は社会からの援助を期待するだけでなく、可能な限り、援助を受けることが必要となった高齢者を支える役割を担うべきだと考え、頑張っています。(文理4経 神谷和夫)

■ 生ある限り“PIPS”の普及に努めます。  
<http://www2.ttcn.ne.jp/p-horie/>参照(文理4経 堀江祈而)

■ わが人生の青春を過ごした静岡大学は本当に懐かしい思い出いっぱいです。賤機山から蛩声を張り上げ、寮歌を歌ったりして青春を謳歌しました。身体の調子が良くないので失礼させていただきます。残念です。皆様によりきお伝えください。(文理4物 水谷 弘)

■ 旧制静岡同窓会長・土屋公献元日弁連会長の出版した「弁護士魂」はまさに病を押しての渾身の著作、5月15日、在京同期の集いで、是非読んで欲しいと訴えた。(出席15名)余生はどう生きようと勝手なり。ならば平和へ命捧げん。(公献)現在加入している団体：八千代市民平和事業実行委員会、日本遺族会、日本平和遺族会、八千代男声合唱団、八千代九条の会、千葉県田碁九条の会、などです。声と汗を出して、元気で。(文理5法 三神哲也)

■ 2年前の脳梗塞発症により、目下服薬とリハビリ継続中です。世界不況と後期高齢者被 庄の社会に生きていることを実感しながら、地域のシルバークラブの在り方を仲間と模索している日々です。(文理6経 多家 正)

追伸：妻 多家たみ子(経4)も欠席します。

■ どうにか元気でいますが、ボケが進んで物忘れが激しく、困っています。(文理6数 湯川正孝)

■ ここ3年ほど、元東京都立大学の中世史ゼミの仲間と年二回のペースで鎌倉街道上ツ道を歩いています(リーダーは川合康教授)。初回は東武東上線武蔵嵐山駅を出発し、菅谷館跡(嵐山重忠居館)、大蔵、笛吹峠を経て毛呂へ。以下間川、所沢、久米川、忍ヶ窪、府中、関戸、小野路等を過ぎ計六回で神奈川県瀬谷までたどり着きました。後二回で鎌倉入りです。また昨年6月4日(大潮)午前10時50分。峰岸純夫先生(都立大名誉教授)のグループと潮のひいた鎌倉稲村ヶ崎の海岸を歩いてわたり、極楽寺の浜に上陸しました。新田義貞の鎌倉攻めは「太平記」によれば5月21日(旧暦)夜半。義貞も地元民の情報でこのことを承知していたのでしょうか。(文理7法 福岡 厚)

■ 当日は東京を離れており、残念ながら出席できません。アメリカのオバマ政権が発足してから、世の中、少しずつ変わりつつあることを感じています。紛争のない世界の実現も夢ではないと一層、そう感ずるようになりました。(文理7物 堀 俊彦)

■ 大動脈瘤の手術をしてから丸3年経ちまして、お蔭で元気になりました。今でも手術跡の違和感と痛みが少々ありますが、酒もゴルフもやります。最近ではへばな水彩スケッチ画に熱中しております。(文理8経 井村謙一)

■ お蔭さまで、地下鉄九段下駅前に司法書士事務所を開設して、10年目になりました。近くに來られたときにはお気軽に声をかけてください。(文理8経 中溝 浩)

■ 年3~4回の旅行を楽しんでいます。今年はインフルエンザ流行のため、少し、ビビッています。せめて国内でゴルフをと楽しんでいます。(文理8経 池谷清彦)

■ 山形大学工学部で専門基礎と称する物理学を週1回の割合で講義しています。5年程前から、学力低下を防ぐ等の目的で、技術者教育認定機構の枠にしばられています。非常勤の私が批判することではないのですが、形式に合わせようとするために創造性を失い、大学教育が形骸化しかねないと心配しています。(文理8物 大橋正義)

■ JICAの途上国向け海外技術協力業務に30年余り従事してまいりましたが、一昨年定年退職いたしました。現在は大学の先生の依頼で、英文和

訳の下訳の仕事をしております。同窓会当日は所用で外出先があり、欠席させていただきます。(文理9英 大庭淳二)

■ 今は・・・毎日、マキ作り。庭の手入れ。畑の準備。夜は少し読書して、10時前に寝る毎日。今、しらかばの新緑、ぶな、カラマツの新緑が美しいです。6月になったら国際交流の準備に入ります。信州方面に来る機会がありましたら、お立ち寄りください。犬、ネコ、ニワトリと一緒にですが。連絡はメールでお願いします。ZXH11062@nifty.com(文理9経 北条勝彦)

■ 時よ、時節よ変わろうとまよまよ・・・歌の文句じゃないけれど俺は気ままな一人暮らし。(文理9数 橋本益男)

■ 相変わらず、民生委員を致しております。自分自身も立派な高齢者ですので、いつまで続けられますかわかりませんが、自身の体調を気にしつつ、お役目を果たしております。(文理10英 大成美知子)

■ 09年4月から京都造形芸術大学の通信教育部で、陶芸コース1年生になり、弁理士業と併行で学びの楽しさを味わい直しています。(文理11物 増井忠式)

■ 東京穆察会の(幹事)旅行から戻ったら、静大東京同窓会の案内が届いていた。旧制静岡高が「米寿」を、静大文理が「耳順」を迎えようとし、静大人文も「不惑」を超えた。同窓会はその発展の歴史の重みをしっかりと担い支えることが問われていると思う。(文理13経 房野照一)

■ ご無沙汰を重ねてきます。現役に区切りをつけ、5年になるうとしています。自由の身を落着いた日々で過ごせる幸を感謝しております。2年前に終の住処を出身地(清水)に定めましたが、予期せぬことの連続で、船橋、清水を半々に往来する昨今、遠からず船橋を去り、故郷の旧清水市に移ります。半世紀ぶりの故郷帰還を楽しみに心待ちする日々です。(文理14経 外岡長城)

■ インドネシア(ジャカルタ)で仕事をしております。(文理15経 村松 靖夫)

■ いよいよ定年です。故郷に帰ろうと計画しています。(文理15化 小沢 誠)

■ 6月12日(金)は以前から楽しみにしているコンサートがあるので、欠席します。(人文2哲 酒井保全)

■ 新聞社の論説委員をやりながら、大學、短大の講師も3年目になりました。教師業も充実させたいと思っています。(人文2外史 三島利徳)

■ 定年退職して1年過ぎました。退職と同時に地元自治会の役を受けましたが、健康第一に過ごしています。新型インフルエンザに気をつけながら皆様もご活躍をされますよう願っています。(人文2法 小幡誠宣)

■ 元気にやっています。次のホームページをご参照ください。

直之：多喜二奪還研究室 <http://www.takijidakkan.com/>

公子：日本共産党伊勢崎市議団 <http://www.jcp-isesaki.net/>

(人文13日史 長谷田直之、公子)

工学部進学過程

■ 週2回のテニスを続けています。今年は中学の方へ出席します。皆さんによりき。(s24年入学電 三好玄洋)

■ 昭和25年4月、静大文理学部入学。在静岡2年後、浜松工学部(機械工学科)

29年3月卒。2年間不二寮に御厄介になり、今でも懐かしく思っております。(s25年入学機 小塚茂雄)

■ 51年前、1年間仰秀寮でお世話になった菅井です。山岳部とグリークラブに入り、先輩にお世話になったことを懐かしく思い出します。現在、静大グリークラブ(現役)は存在しませんが、静大OBグリークラブは9年前にスタートし、年1度は全国から50名前後のメンバーが集まり、練習とミニコンサートなど行っています。来年は現役の定期演奏会から50年、OBグリーが発足して10年になりますので、記念演奏会と記念誌の発行を企画しております。普段は関東、母校、東海、関西支部ごとに毎月、練習を行っています。もう一度男声合唱のハーモニーを味わいたい方、学生時代はやってなかったが、歌ってみようと思われる方は是非、ご連絡ください。練習場所、日時等お知らせします。連絡先は下記です。

〒320-0049 宇都宮市一の沢町285-88  
Tel 028-666-5148 携帯 090-8849-1971  
E-mail sugai.t@tea.ocn.ne.jp 菅井俊郎宛 (s33年入学 菅井 俊郎)

## 同窓会員の連絡先照会のお願い

次の方々については、郵便物が宛先不明で戻っています。現在の連絡先をご存知の方は、本人にお伝えいただくか、本部にお知らせ下さい。

武久敏紹 (S31)、佐藤徳治 (S32)、八木下晃司 (S41)、安江俊二 (S43)、近藤彰 (S45)、戸田公 (S46)、高橋宏一 (S51)、野村宏 (S53)、藤田英毅 (S61)、及川訓 (S62)、松本俊二 (? )、白石一郎 (H1)、

二宮嘉康 (H4)、藤平美砂 (H5)、岡部久宏 (H6)、後藤知佳子 (H12)、諏訪部すみれ (H12)、新井聡 (H12)、高瀬努 (H13)、矢切尚行 (H14)、西村啓祐 (H15)、王楠 (H15)、村松美樹 (H16)、今野英司 (H16)、原田郁子 (H17)、土岐恵美 (H17)、飯野祐平 (H19)、藤田貴子 (H19)、次田繭子 (H20)、加藤友佳 (H20)、太田雅子 (H20)

## 「供養とスケッチの四国八十八ヶ所寺遍路旅」

文理9 経 小林五郎

10月21日 (日)

旅も38日目に入り、残り少ない。やれやれという安堵感より、あと2、3日で終わってしまうという淋しさの方が大きい。長歩きすると夕方には流石に疲れはでるが、翌朝にはすっかり元気になり楽しく歩けるので、もっと旅をつづけたい。親しくなった人達ともこうして一緒に旅をつづけたい、こんな思いが強くなる。

朝から曇り空で、いづれ雨が降ってきそうなので7時前には宿を出る。奈央ちゃんはどうしても神野寺近くの満濃池に行きたいと5時頃出発していたので再び1人歩きだ。宿の主人が弥谷寺までの道順をコピーしてくれたのでそれを見ながら歩く。街中の道はとかく判りにくく、香川に入ってから道はさやへんるシールも極端に減っていたので大変助かった。

になっている感じだ。近くの岩壁には阿弥陀三尊が刻まれていて神秘的である。伝説によると大師はこの岩山で8万4千体の仏像を刻んだという。

読経をすませた大師堂に下りてくる。入口で靴をぬぎ狭い階段を上ると右手に大師像が祀られていて、像の背後には奥の院がある。獅子岩屋といわれていて、廻り道して行けるようになっている。真暗な岩窟に数本の燈明がゆれている。大師像と母君、父君の像が祀られているが、大師が幼少の頃ここで学問に励んだと伝えられている。それにしても幼くしてこんな山奥の暗い岩屋の中でよく学んだものだとその精神力には感心する。

雨がパラついてきたのでポンチョをつけて石段を下りる。山門を出たところから山のお遍路道に入る。しばらく松林が続き、ぬけると一面のくぬぎ林で山道は無数のドングリで埋め尽くされている。



弥谷寺は三朶峰という小高い山の上にある途中からきつい坂道を上ってゆく。この山は死者の霊が行く山として信じられていて、一帯には信仰遺跡があり、県の史跡に指定されている。山道の入口には俳句茶屋が数軒あるが早朝なので大半は閉まっている。風格のある仁王門をくぐるとすぐ石段が続いていて全部で260段ある。石段右側はうっ蒼と生い茂る林でその根元には石仏、石像が立ち並んでいて賽の河原と呼ばれている。上り切ったところには6mの高さの金剛拳大菩薩像が立っている。像の横から更に石段がつづいているが両側から大木がおおいかがさるように枝を茂らせていてトンネルのようなうす暗い石段を何百段も上ってようやく大師堂につく。本堂はここから更に上る。本堂の建物は背後の岩山にへばりつくように建てられていて山と一体

あたかも川原の砂利の如しで、これ程大量のドングリは見ることがない。

しかもドングリの道は100m位続いている。くぬぎ林をぬけるとみかん畑にかこまれた農道に出た。前方が開けて、向うには田圃や家並みが広がり、その一角に善通寺があるのだろう。広い自動車道に出ると間もなくコンビニの看板が目に入った。店先にはお遍路が2人いて一人は鈴木さんと若い男の子と一緒にいる。そういえば先日会った時東京から男友人が来るので2日程お遍路の手引きをするのだと言っていたのを思い出した。この青年がその人なのだろう。雨の中近づいて「オッス」と声をかけるとびっくりして「小林さん！ 今日はお一人ですか」「そう、田村さんは満濃池に行ったのでね」と一言二言会話をして私はコンビニに入った。まさかと思ったがダメモトと

思ってた店員に聞いてみた。「腕時計は売ってる？」すると「ハイありますよ」と全く意外な返事。カウンターから出てきて案内してくれた棚には確かに5、6個の腕時計がビニール袋に入って無難作に売られていた。コンビニにはいろいろあると聞いてはいたがまさか腕時計まであるとは恐れいった。値段は何と800円で裏には非売品のレッテルが貼られたままで、とにかく1週間動いてくれればいいのですぐ一個を購入した。彼女達と別れ一足先に出発する。隣接して建っている曼荼羅寺、出釈迦寺と甲山寺を打ち終え善通寺に向う。善通寺市の住宅地を少し進むとすぐに門前に出た。

善通寺は大師が生れた地として有名で、門前町として栄えてきた善通寺市の街中にある。

高野山、東寺とともに大師の三大霊場の一つである。仁王門を入ると御影堂に通ずるアーケード状の参道があり、右側にはお守りや仏具の店の外土産物店や食堂が軒を連ねている。左側にはベンチが並べられているが、今日は丁度大師祭りの最中で通りは人で埋まり、ベンチも空いているところがない。正月3ヶ日の浅間さんのように人混をかきわけおさい銭をあげてお経をあげる。祭りの最中でお遍路の姿はなく地元の人が多いため読経している人は殆どいない。本堂が見当たらないので、お守りを買いながら聞くと山門を出て道の向う側だという。仁王門前の道を横切ると、先程は気がつかなかったが、前方にはグラウンドが幾つも入る程の広大な敷地が広がっていた。45万㎡というからとてつもない広さで、寺領全体は父善通郷の荘田だったという。先の御影堂のある方を西院といい、こちら側を東院といって、東院には金堂、五重塔、釈迦堂等の外、東に赤門、南に南大門、西には中門が建っている。五重塔近くには樹齢千年をこえる楠の大木もある。

秋空を突きぬけるように高く聳える五重塔、その北側にある17世紀に再建されたという金堂、共に見事という外はない。生憎の雨模様で残念だが、1日かけてゆっくり見学したいと思う。未練は残るが善通寺を後に先を急ぐ。東の赤門を出ると開通したばかりの新しい商店街、善通寺通りが真直ぐ東に向ってのびている。2キロ程歩くと国道に出た。

右に行くと満濃池に行けるが、左折して第七十六番札所金倉寺に向う。途中から細い住宅道に入り、2キロ位歩くと金倉寺の真前に出た。大きな仁王門の軒下には、雨宿りしながらスケッチをしている2人に出会う。年輩の40才代の男性は大きな画帖に線画でお寺を書きこんでいる。横には20才代の若者がのぞきこみながら絵について議論している様子。年輩の男性は偶然にも同郷の清水市の人だった。八十八ヶ寺を訪ねて精密画を作成し、将来画集にしたり、1枚もので売りたいという希望をもっていた。四国遍路は既に8回目だという。聞くと、善人宿「まんだら」で泊る予定といい私も同じなので、ご一緒させてもらって宿に向う。

若者は野宿がいいと断ってその場にとどまった。こんな雨の中でも野宿がいいのかと一寸信じがたい。

善人宿には既に数人の先客がいて、何とその中に奈央ちゃんが涼しい顔して出迎えてくれた。「あれ？ どうしてここにいるの？ 今日は満濃池に行ったん

じゃないの？」「雨が降り出したので途中でやめました」

それも道理で、先程歩いてきた善通寺通りの角から満濃池まで片道で14キロ位あり、往復すれば夜中になってしまう。賢明な選択だったと思う。少し遅れて鈴木さんとボーイフレンドもやってきて全部で9名になった。宿の所有者は建設会社の社長さんで、40才代とまだ若い。美人の奥さんを連れて顔を出し、「こんなに大勢泊るのはこの宿始めて以来かな」と驚いていた。望月さんが途中お接待でいただいた讃岐うどんを沢山持ってきていたので、これを今夜皆で食べようということになり、奥さんと女性達が鍋を用意して調理場でつくることになった。

同宿者は坊さん見習いの人、迷える若者、絵かき願望の望月さんに女性が3名等老若男女がいて大変にぎやかな一夜になった。大鍋で煮こんだうどんは絶品で「こんなおいしいうどんは滅多食べれないよ」と自画自賛しながら、14、15人前あったと思われる大量のうどんをほぼ食べてしまった。

同宿の若者は生き方に迷っていた。高校を卒業して寿し屋で7~8年修行を積み、今では独立できるのだが、寿し職人の人生に疑問を感じて旅に出た。それでも思いが定まらず、たまたまこの宿の主人に会い、今はここで仕事を手伝いながら長期滞在している。話を聞くと同感できる点もあるが、今の若者にありがちなわがままの面も顔をのぞかせている。

私の青春時代は飯を食べることが第一だった。とにかくサラリーマンになって金を稼ぎ生きてゆくことしか考えていなかった。戦後の混乱期と未曾有の失業・就職難時代を経験して、とにかくどこかで働いて稼ぎ生計をたてるのが第一で、生きる意義とか、いかに生きるべきかなどむづかしいことを考える余裕は全くなかったのである。ところが現在は食べることにこと欠かないので若者は「食べるために生きる、のではなく、本来そうあるべきなのだが」生きること自体、が諸に問われてしまっている。見本になるべき大人達は価値観の崩壊の中で自信を失っているし、政治は乱れて、産業界も大不況の中でリストラを乱発し、世界のあちこちで戦争があり、生き甲斐の手本を示してくれる人物像が見当たらないのだ。若者の中には、フリーターとしてその時々を気楽に快適に生きてゆくスタイルが増えている。大企業に入ってもいつ倒産したりリストラされるか判らない現実を思うと、これもまたやむをえないのかと思ってしまう。

生き甲斐とは詮じ詰めて考えると「自分が周囲の人達に受け容れてもらえるかどうか」ということだろう。その場所はまず家庭であり、仲間内であったり、サークル、企業、地域社会等であって、仕事やボランティア等様々な行動を通じて得られるものだと思う。彼は出口の見えない迷路に入っているようで、「それでも」と彼は続けた。「迷った挙句、いつかは必ず心の原点みたいなのところまでどってこると思うから、その時をじっと待つしかないんです」と。原点とは何か、本人にも判らないいつ来るのか、果して来るのかも判らない。辛くて苦しい日々がつづくだろうが乗りきって欲しい。今の日本には彼のような若者が増えているのではないだろうか。

# 歴史（史実）の軽視ということ

人文1外国史 山口 茂

5月の中ごろ、もと同窓会副会長の中西さんから、日経新聞の切り抜きが送られてきた。切り抜きの内容は、東郷隆著『九重の雲』という本の書評である。本の内容は、明治10年に起った西南戦争で、西郷軍の事実上の指導者だった桐野利秋の評伝であるらしい。東郷氏は1951年生れ、横浜の出身だという。桐野に関心をもつ人などそう多くはあるまいと思えるので、鹿児島出身かと思ったら横浜だという。ただし、東郷という姓は、全国に2000と少々しかなく、そのうち440軒あまりは鹿児島県であるから、氏の父、または祖父が同県出身かとも考えられる。あるいはペンネームか。

ところでこの批評を読んだら、ここに転写したような文章が出てきたのであきれてしまった。西郷隆盛の県政改革により、地方の武士（郷士）は差別されたから、郷士たちは西南戦争にはあまり加わっていない、というのである。だとすると、7ヶ月にわたるこの戦争（2月～9月）は、ほとんど城下士たちによって戦われたということになる。

西郷軍に対する政府軍はつぎつぎと増強され、最終的には兵員だけでも約5万人が動員されている。当時の鹿児島（市）の士族戸数からすると、城下士で動員されたのは総計で1万人前後だと考えられる。（熊本での）初戦に加ったのは3千人くらい。城下士だけで戦ったのなら、この士族反乱も佐賀の乱などと同じく短期間のうちに鎮圧されたにちがいない。ところがこの戦争は、肥、薩、隅、日、豊を舞台にして、7ヶ月も続いているのである。

こんなおかしな話しが世にまかりとおっては、従軍し、かつ斃れていった郷士たちがあまりにも気の毒である。そう考えて、日経新聞に注意をうながす手紙を送ったのである。さて、どんな反応が返ってくるのだろうか。1ヶ月たったが、その間何の返答もない。

（なお、拙著『知られざる西南戦争』は売り切れで入手困難です。国会図書館、熊本市、宮崎市などの図書館には置いてあります。同窓会の諸兄姉にもよんでいただけたら、と思います。）

日経新聞「読書」欄担当者 様

前略

貴紙5月10日付書評、『九重の雲』＝東郷隆著（末國善己評）を拝読しました。文中

「西郷の改革が、下級武士を優遇し半農の武士（郷士）を差別したため、西南戦争に従軍する郷士が少なかったことを指摘」とありますが、これは事実

に反すると思いますので、一言申し上げます。

私は、2001年3月に『知られざる西南戦争』（鳥影社刊）を出版いたしました。これは多くの資料、とくに地方の郷土誌（史）などの、その郷と西南戦争とに関わる記述に注目して書き上げたものです。第二章“諸郷と西南戦争”では、鹿児島（市）のほか、都城、知覧、志布志、延岡などの例をあげ、いかに多くの郷士が戦いに加わっていったかを明らかにしています。

西郷軍出発時の主力は5大隊で（他に砲隊、加治木を中心とした6大隊や7番大隊などがある）、1大隊は10小隊、1小隊の兵員は約200名です。

当時村田新八は川上親晴（のちに警視總監）に、「三千の子弟は一身を西郷先生に捧げている云々」と語っています。この「三千の子弟」は城下の私学校徒をさしていると思われませんが、彼らがすべて従軍したとしても、50小隊にわり振ったら1小隊に60名です。だから、残り140名は郷士で構成されていたことになります。これは一番立ちのはなしです。この後も3月末に人吉で新たに第9、第10大隊が編成されますが、これはほとんどが郷士です。

現代のわれわれは、直接自分の利害にかかわらないことでは動きませんが、当時の（とくに鹿児島県下の）士族はちがいます。どうか東郷様にも拙著をお読みくださり再考して頂きたいと思えます。誤った解釈が世間にひろがっては、当時各地で戦った無数の郷士たちの魂も浮ばれません。

草々

2009年6月6日

山口 茂

に入学したので、皆とは随分違う形で今に至ったのです。

そういう訳で、最初は本当に不安で堪りませんでした。年齢も離れ、国籍も違う訳なので、皆に距離を置かれるのではないかと。そういう気持ちは人から自信を奪ってしまうものです。当時は1年生だったのですが、全てに於いて引っ込み思案な態勢になってしまっていました。とても寂しかったです。しかし、人は必ず何かを切掛けに勇気を出して自信を取り戻すことができるものです。1年の教養科目で「キャリアデザイン」という講義がありましたが、先生は留学生達にもたくさんの質問をし、他の学生達と変わらず、全く平等に接してくれました。最初は自分の日本語が下手だから、皆が相手にしてくれるまいと思い込んでしまっていたのですが、質問に答える時や、グループワークの時に、彼らは意外と私の発言に耳を傾けてくれたのです。親切に。私はだんだん皆に向かって話せるようになりました。そういう度重なる作業を通して私は自信を取り戻すことができました。

それは私にとって大切な切掛けとなりました。その時から、普通にサークルにも入るようになり、講義で恥ずかしがらず発言するようになりました。より積極

的に自分の大学生生活に取り組み始めたのです。できると思えば必ずできる！これが現在の私の座右の銘です。

3年生になって、専門の講義や演習が、どんどん入ってきました。たくさんの本を読み、自分の考えや意見を言わなければならないです。私は主に日本近現代文学を勉強することにしたのですが、かなりのレベル・アップです。ところが、現代文学を中心にやるつもりだったのに、夏目漱石も面白くなってきて、範囲が、またぐんと広がってしまいました。もちろん、たいへんですが、皆よりは時間が何倍もかかるその作業を喜んでやりこなすつもりです。できると思えば、国籍や年齢など、なんでもありません。大好きな村上春樹、江國香織、夏目漱石らを、懲りずに読み続けて、考えていくつもりです。そして、今やっているジャズサークルも頑張ります。たくさん音楽を聴いて自分を豊かにしたいと思います。大変ですが、私はできると思っています。

今日も駅の方にあるアルバイト先に行かなければなりません。自転車に乗り、風を受けながら走るのでしょうか。その気持ちいい瞬間を幸せに思いながら、普通に学生らしい生活が送れるということに感謝しながら。ジャズを聴きながら。1Q84の内容を楽しみにしながら…。

## これからの学生生活

法学科3年 横山彬奈

学生生活も三年目となり、周囲が就職を意識し始める時期となりました。友人との会話にも自然と、将来についてや、就職活動の事などが上るようになり、そうした事が少なからず影響し、私自身も、将来についてこれまで以上に具体的なイメージを持ち、計画的に行動していかねればと考え始めました。

そして、それは私が大学生活を送る意義について改めて考え直す機会となりました。

これまでの学生生活で、私にとってとても良い経験となった事は、サークル等の活動を通して、様々な価値観を持つ人と交流する事で、自分の視野が以前よりもずっと広がったという事でした。大学生活で出会う人々は、とても個性があり、また、自らの主張をしっかりと持っていました。そんな人々と交流する中で、私は、今までの生活の中で得た情報のみで作られた自分の価値観が、少し違う視点から考えたり、新たな知識を得ることで、必ずしも当たり前のことではなくなってしまいうという経験を何度もしました。大学入学以前は、周囲と足並みをそろえる生活しかしてこなかった私にとって、それは大きな発見でした。しかし、そうした個性に触れることで、反対に自分の判断基準がとても曖昧であることにも気づきました。そして私は、自分の考えを持つこと、という基本的な問題について、改めて考えざるを得なくなったのです。

そうして考える中で、物事を判断するには、材料となる知識と判断力が必要であるが、これは、学校へ行き講義を受けただけで身につくものではないと分かり

ました。サークルやゼミで仲間と交流することや、関心のある事柄について独自に勉強すること、読書や、友人と旅行に出かけるといった中にも、そうした材料は至るところにあるのではないかと考えています。そして今、社会の一員となる自分を想像し、今の自分に一番必要である事は何かと考えたとき、それは、それらの様々な情報の中から、必要な情報を選択し、考えを確立する力を確かなものにする事であると思ったのです。

意識が変化しても、そういった力はなかなかすぐに身につくませんでした。しかし、大学生活の四年間とは、自分にとってとても自由な時間であり、その自由な時間でできることに制限はありません。その中で、自らの視野を広めるために、様々な経験をすることができる機会を持っている事は、とても貴重な事であるという事に気づき、残された時間を充実したものとするよう最大限活用すべきではないだろうかとも考えました。

学生生活も半分を切り、自らの将来のため、残された時間の中でやるべき事は多くなりました。しかし、その中でやるべき事だけに流されず、積極的に自分の興味のあることに取り組んでゆく事で、日々新たな発見のある毎日を送る事ができるのではないのでしょうか。残りの学生生活をそうして過ごすことで、少なからず自分にとってプラスとなるのではないかと考えています。そしてその中で見つけた材料を、将来の自己決定につなげてゆけるような実りのある日々を送る事を、これからの学生生活の目標として生活してゆきたいと思っています。

# 大学だより

できると思えば必ずできる!-これが私の座右の銘

言語文化3年 徐 玄朱

私は韓国人の留学生です。今年、人文学部言語文化学科の3年生になりました。静岡の生活も今年で3年目になった訳です。現在、私は留学生でありながらも、他の友達と変わらず、講

義や課題、サークル活動、アルバイト等で多忙な日々を送っています。

私は母国では短大を卒業し、約4年間仕事をしてから日本にきました。さらに東京で2年間語学の勉強をしてから静大

# 大学に入学して

経済学科1年 片岡飛鳥

4月7日に入学式を終え、私は、静岡大学人文学部経済学科に入学しました。静岡大学を見て率直に思ったのが、山の方面に建っていて、自然が多い大学という印象でした。マムシ注意という看板を見たときに私はとても衝撃を受けました。通ってみると、坂が想像以上にきつく、4月の肌寒い季節でも汗がにじむほどでした。また、私は経済学科の学生なので、人文学部大講義室（通称、人大講）に行くことがあり、人大講はキャンパス内が一番上にあるので、行くだけで一苦労です。講義が連続であるときは、移動時間の10分を使い切り、息が荒いまま授業にのぞみます。あとで先輩に聞いてみると、人大講とは一番高い所に建っている校舎で、ビルで言うと約11階建の高さにあたることを知りました。

大学の講義は、高校と違い90分なので、とても長く感じられます。まだ慣れてないせいか、講義中に時計を何度も見てしまいます。講義は、経済の専門科目や簿記の他に英語やフランス語といった初修外国語などを受けています。私は、経済の専門科目は4科目履修していますが、どれも知らないことばかりで大変です。その反面、新しいことが多く、今まで疑問に思っていたことが解決したときは、面白くもあります。また、レポートの課題や論述形式のテストなどは、今までやったことがなかったので戸惑いました。中学や高校までのようにあらかじめ

答えが用意されているのではなく、自分で一から答えを考え、導き出すということとはとても新鮮であり、また難しくもあります。大学では、レポートを書いたり、論述をしたり、といった能力が求められているので、一日も早くその能力を身につけたいと思います。そのために、この時期に経済学の土台の部分をつきつけ、これからにつなげていこうと思います。

大学での生活は、思っていたよりも時間がある、という印象です。時間がある分、勉強やバイト、サークル活動など、有意義に時間を使っていきたいです。私は軟式野球サークルに加入したので勉強とサークルの両方に時間を使っていこうと思います。また、大学となると、家族と離れて暮らしている方が多いと思います。私もそのうちの一人ですが、私は、静岡大学の学生寮に入っています。寮は楽しいところで、端的に言えば、毎日が修学旅行みたいなものです。友達の誰かの部屋に集まって話したり、みんなでゲームをやったりと盛り上がっています。特に先輩方は、優しく面白い人達ばかりです。大学のことについて教えてくれて大変お世話になっています。

大学は、すべて自由な反面、すべて自己責任なので大変です。自発的に行動しなければ有意義な大学生活は送れません。このことを肝に銘じ、有意義な、また充実した大学生活を送れるように頑張りたいと思います。

# “大学に入学して”今思うこと

社会学科1年 新井勝大

“大学に入学して”という内容の文章を書かなくてはならないのですが、このお題はとても書きづらいものです。なぜなら、僕自身特に大学に入学したから特別なことをしようとか、するべきだとかいうことは全く思っていないからです。これまでの1ヶ月ちょっとの間の大学生活においても、大学入学以前と変わらない生活を淡々と送ろうとただ生活してきただけでした。そう、ただ単に今という時間を大事にしようとして生活しているだけなのです。

大学に入り、確かに以前とは生活のリズム、内容は大きく変わってきたと思います。卒業のために決められた時間に通学したり、ちょっとした勉強をしたりしなくてはならないし、そのことを多少は考慮しつつ自分の仕事や遊びの予定を入れていかなくてはならないからです。でも、僕にとってこの変化は外面的、表面的変化であり、特に気にするものでもないのです。住む場所、時間が変われば、生活の内容ぐらいいは変わるが普通だと思えます。僕がここで言いたいことは、内面的、根本的な部分では僕は何も変わってはいないし、変えていこうという意識もないということです。

大学に入る以前から変えていない根本的な暮らし方というのは、冒頭でも少し触れたことだが、今を大切に生きるといことです。僕が大学生になった理由も今を大切に生きてきた結果です。今大切に

しなければならぬことが勉強することだと感じたから、大学生になり、大学に入学して、いまここにいます。なぜ大学で勉強を選んだのか？という問いにちゃんと答えると、長くて込み入った話になりそうなので、ここでは要約して大学で勉強したかったということにしておきます。大学での勉強が僕の今にとって大切なものなのです。

ここで、大学での勉強というのは具体的にどういうものなのかということについて述べさせてもらおうと、それはもちろん卒業するための必修科目だったり、それ以外の学問的な勉強ということもあります。がしかし、それとともに大学の中で得る機会や出会う人から学ぶことも大学での勉強であると思います。要するに、大学で経験できることすべてが僕にとっての大学での勉強なのです。そして大学での経験が僕にとって大切なもののうちのひとつであることは間違いありません。

「経験が人を創る」これは僕の新生セミナーの担任の山下秀智先生が新生歓迎会で西田幾多郎氏の言葉を引用しておっしゃったことですが、この言葉が僕が今を大切にしている理由をすっきりと説明してくれそうなので僕も引用させていただきます。「今経験していることが僕を創る、だから僕は今を大切に生きる。」これが、僕が“大学に入学して”今思うことです。

# 退職された先生

塩谷 敬先生

塩谷敬先生は、10年にわたり静大で教鞭をとられ、本年3月末日をもって定年退職されました。先生は、高卒後に入団された劇団文化座でフランスの前衛演劇に出会ったことから、演劇研究を志し仏文科の門を叩かれたという異色の経歴をお持ちです。フランス留学は9年に及び、20世紀前半における日仏の演劇の影響関係をテーマとした先生の博士論文は、レヴィ=ストロースの序文を付して刊行され、本書により先生は、日本人としては初めて、アカデミー・フランセーズよりロラン・ド・ジュヴェネル文学賞を

授与されました。静大での先生は、フランス文化全般にわたる深い教養と、軽妙洒落なお人柄で学生を魅了し、国内外に演劇論を発表されると共に、長年のご盟友であり仏文化省大臣を務めたジャック・ラングの著作の翻訳も手がけられました。静岡日仏協会会長、静岡学生フランス語翻訳コンクール審査委員長も務められ、日仏の架け橋として活躍されました。最終講義には多くの卒業生や市民が駆けつけ、教室は溢れんばかりでした。

(言語文化学科准教授 安永 愛)

久保英雄先生

元(東大全共闘)の闘士、ということちょっと怖そうだが、久保先生ほど学部を超えて、理事たちから生協食堂のおばさんたちに至るまで、幅広い人脈をもった人はいない。事務職の若い女性たちを集めて久保先生が定期的に飲み会を開いていたことも私は知っている。なぜか若い女性にもてるのである。静大勤務30余年、静岡県ラグビーフットボール協会理事、名著『知られざるスターリン』(現代思潮新社、今でも売れている)の翻訳者、久保先生を語る切り口はいろ

いろあるのだが、どれひとつをテーマにしても、とても四百字の紙幅にはおさまらない。今静大は教員をその仕事内容によって細かく点数評価する制度がつくられたのだが(例えば、論文2本書いて1点、FD活動に参加して1点etc.)、久保先生の実力と魅力はこんなちまちました枠にはおさまらない。久保先生がキャンパスを去られるにはちょうどよい時期なのかも知れない。これまでのご厚誼、感謝してます。どうぞお元気で。

(言語文化学科教授 田村充正)

# 新任教官紹介

社会学科 堂園俊彦

2008年10月1日付で人文学部社会学科人間学コースに着任した堂園(どうぞの)俊彦と申します。近年、終末期における人工呼吸器の取り外しや、他人(あるいは実母)にカップルが子どもを産んでもらう代理出産など、生命や医療をめぐる多くの問題が生じていますが、こうした問題に哲学・倫理学の観点からアプローチしてきました。とりわけこうした問題を考える上で重要な役割を果たしている「人間の尊厳」という概念を、イマヌエル・カントの哲学を手掛かりとして考察しています。教育面では、以前より医療従事者の方々を対象とした社会人教

育に取り組んできました。こうした経験を生かし、ここ静岡でも、学内にとどまらず、地域社会の方々や同窓会の皆様と様々な活動を展開させていただければと切に願っております。まだまだ至らない点多いかと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



## 平成21年3月 人文学部卒業生就職・進学等学科別一覧

平成21年4月7日

	社会学科			言語文化学科			法学科(昼間)			経済学科(昼間)			法学科(夜間)			経済学科(夜間)			計			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
卒業生	40	35	75	22	57	79	61	30	91	126	37	163	20	9	29	29	13	42	298	181	479	
就職者	25	25	50	15	46	61	43	17	60	111	35	146	7	3	10	11	4	15	212	130	342	
内	公務員	5	6	11	1	6	7	11	8	19	23	6	29	0	0	0	2	0	2	42	26	68
	教職公務員	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	3
	私学教員	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	一般企業等	19	19	38	12	39	51	32	9	41	87	29	116	7	3	10	9	4	13	166	103	269
進	大学院進学	5	6	11	4	1	5	7	6	13	1	1	2	0	0	0	3	1	4	20	15	35
	専門学校	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	3
	留学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	未決定	1	0	1	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3	1	4
既就職者	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	9	3	12	8	3	11	17	7	24	24	
進路未定	2	0	2	0	2	2	3	0	3	2	0	2	2	1	3	0	0	0	9	3	12	
その他	6	4	10	1	7	8	7	5	12	11	1	12	1	2	3	7	5	12	33	24	57	

※進学その他(編入学生、研究生、科目等履修生、聴講生等)

※その他(就職活動継続、国家試験・公務員試験・教員採用試験等受験、資格試験準備等)

# 書籍紹介

## 『ケースブック 心理臨床の倫理と法』

松田純・江口昌克・正木祐史編集 (知泉書館、2009年3月刊行) 224頁、本体価格2,200円 ISBN978-4-86285-054-6

今日、さまざまな分野で“倫理”と倫理教育の重要性が叫ばれているが、何をどのように教えるか試行錯誤している状況が見られる。なかでも心理臨床の分野では、倫理的・法的問題を扱った基本文献がきわめて乏しい。

本書は、科学研究費に基づく研究プロジェクト（「対人援助（心理臨床・ヒューマンケア）の倫理と法、その理論と教育プログラム開発」2005-07年度。研究代表者：浜渦辰二）の成果をふまえて、心理臨床、哲学・倫理学、法学、精神医学、社会心理学、社会福祉学、保健学、薬学の各分野の専門家からなる学際的な取り組みによって実現した。当該テーマでこうした学際的な取り組みによる成果はわが国ではじめてである。

総論で、心理臨床の倫理と法の基本を解説したのち、ケーススタディ編で、心理臨床家が直面するさまざまな倫理的・法的問題を取り上げた。これらのケースはいずれも、難しいモラルディレンマ（または倫理的葛藤）を含んでいる。これらを検討するなかで、倫理的な思考の訓練ができるように構成されている。

多数のコラム、貴重な法学レクチャーと薬学レクチャーも含んでいる。目次は下記のとおりである。

### はじめに

#### I 総論 心理臨床の倫理と法

- 1 倫理とはなにか？
- 2 倫理学と倫理理論
- 3 必要な倫理原則
- 4 生物医学倫理の四原則
- 5 クライアントとの関係における四つの規則
- 6 倫理的葛藤（モラルディレンマ）と意思決定のプロセス
- 7 このテキストの使い方——マニユ

アル対応ではなく、倫理的な理由を考える

#### II ケースの紹介と倫理的・法的問題のポイント

#### III ケーススタディ編

- 守秘とその限界
- ケース1 母親へのカルテ開示と説明責任
- ケース2 スクールカウンセラーの守秘義務と学校との連携
- ケース3 性的虐待
- ケース4 企業内カウンセラーのディレンマ
- ケース5 性犯罪被害者への支援
- ケース6 そう状態でクライアントが逮捕される
- ケース7 覚せい剤の使用が疑われる場合
- 多重関係
- ケース8 クライアントとの恋愛関係 価値観と自己決定
- ケース9 終末期の心理臨床
- ケース10 羊水検査を受けるかどうか 研究倫理
- ケース11 事例発表・出版についての承諾

#### IV 資料編

- 日本臨床心理士会倫理綱領  
法令・判例のインターネット検索

#### コラム

- 1 モラルディレンマとは／松田 純
- 2 原則主義への批判／松田 純
- 3 プロフェッションの法と倫理／藤本 亮
- 4 臨床心理専門職と生涯研修——日米の比較／田畑 治

- 5 「対人援助の倫理と法」を取り巻く文化——援助要請傾向の日米差が意味するものは／橋本 剛
- 6 多文化カウンセリング／小島孝子
- 7 面接記録（カルテ）の保管と持ち出しについて／早矢仕彩子
- 8 カウンセリングの料金／早矢仕彩子
- 9 スクールカウンセリング活動と学校／早矢仕彩子
- 10 オープンなスペースでのSCの活動／江口昌克・松田 純
- 11 スクールサイコロジスト養成プログラムにおける倫理・法教育——シカゴの場合／渡部敦子
- 12 事業場外スタッフ（EAPサービス機関等）における守秘の問題／江口昌克
- 13 米国におけるHIV陽性クライアントへの対応／江口昌克
- 14 HIV感染者への心理社会的支援について／江口昌克
- 15 希死念慮を持つクライアントへの対応／江口昌克
- 16 タラソフ判決の原則／磯田雄二郎
- 17 犯罪の予測可能性について／磯田雄二郎
- 18 覚せい剤についての対応／磯田雄二郎
- 19 多重関係と文化感受性／早矢仕彩子
- 20 転移・逆転移／早矢仕彩子
- 21 職能団体の倫理委員会／早矢仕彩子
- 22 終末期医療をめぐる動き／浜渦辰二
- 23 尊厳死とリビングウィルの法制化をめぐるアメリカとドイツの現状／浜渦辰二

- 24 専門家の説明モデルと病いのナラティブ／南山浩二
- 25 出生前診断と選択的（人工妊娠）中絶／玉井真理子
- 26 胎児条項／玉井真理子
- 27 ロングフル・バース訴訟、ロングフル・ライフ訴訟／松田 純
- 28 研究の倫理／松田 純

#### 法学レクチャー

- 1 刑事法上の秘密の保持／正木祐史
- 2 未成年者と親との関係／宮下修一
- 3 カルテの開示・説明と法的責任／宮下修一
- 4 児童虐待防止法について／正木祐史
- 5 性非行と少年法上の虞犯／正木祐史
- 6 犯罪被害者等基本法とそれに基づく支援施策／白井孝一
- 7 秘密保持についての民事責任について／宮下修一
- 8 犯罪の通報・捜査協力／正木祐史
- 9 少年事件の手続／正木祐史
- 10 未成年者に対する監督義務違反とその民事責任／田中克志
- 11 事例を公表することによる守秘義務違反とその民事責任

#### 薬学レクチャー

- 1 「死の病」から慢性疾患へ——抗HIV薬の開発／川村和美
- 2 ドラッグについて／川村和美

## ◎書籍紹介欄の活用について

堀田雅男さんから、「書籍紹介欄への掲載は、現職教官の著作に限るのか。」との質問がありました。そういうことは、ありません。同窓生の筆になる書籍については、大歓迎です。読後の書評、感想などもぜひお寄せください。

※本部あてに住所変更していただきますと所属支部も自動的に変更となります。

## 会員の皆様へお願い

- 次の場合には必ず、「変更データ個人票」を同窓会事務局までお送りください。
- ・転勤、引っ越し等により、住所が変わったとき。
  - ・自宅の電話番号が変わったとき。
  - ・結婚等により、姓が変わったとき。
  - ・勤務する会社等が変わったとき。
  - ・その他会員名簿の記載事項に変更が生じたとき。

### 住所等の変更は、速やかにこの用紙に記入の上事務局へお送りください。

静岡大学文理・人文学部同窓会		全部で _____ 件		* データ作成者名	
<b>変更データ個人票</b>		No. _____		電 話 ( ) _____	
変更データ入手日 _____ 年 _____ 月 _____ 日		本部受取日 _____ 年 _____ 月 _____ 日		データ更新日 _____ 年 _____ 月 _____ 日	
個人コード番号		連絡事項			
* 文理・人文学部 _____ 回 _____ 昭和・平成 _____ 年卒業		専攻 _____			
ふりがな * 氏 名 _____		ふりがな 新 氏 名 _____			
* 名簿の 氏名 住所 電話 勤め先 支部 の変更(該当するところへ○を付ける。)					
新住所	〒 _____ ( ) _____			新勤め先	_____
新電話	_____ ( ) _____			会 社 名	_____
メー ル	_____ ( ) _____			電 話	_____ ( ) _____

\*は必ず記入のこと。  
訂正検索の利便のため、卒業回、卒業年、専攻学科を必ず記入してください。

## 静岡大学文理・人文学部同窓会事務局

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学共通教育A棟  
TEL・FAX 054-238-5148

〈事務局への連絡〉月曜日から金曜日の10:00~16:00にご連絡ください。  
(休日、時間外はFAXにてご連絡くだされば、後で対応いたします。)担当:土屋